

令和2年3月18日(水) 提出

無記入・日付が異なる場合は再提出となりますのでご注意ください。

(見本)

2019 年度 活動成績報告書
調査部門団体
総務部

部長と主将の名前が記載されていない場合は再提出となりますので注意してください。

学友会総務部 部長 _____

学友会総務部 主将 _____

日付は令和2年3月15日(日)現在とし、2019年度の4年生の人数も記入してください。

1、部員数 (令和2年3月15日(日)現在)

10名 (4年生1名、3年生1名、2年生2名、1年生6名)

2、活動日

毎週月曜日 17時55分～部会(世田谷キャンパス)

第3木曜日 16時45分～クラブ・サークル代表者会議(両キャンパス)

第3土曜日 9時～クリーン大作戦(両キャンパス周辺)

その他会議・行事によって活動(両キャンパス)

3、活動行事日程

4月 入学式(部旗掲揚)、クラブ・サークル合同説明会・ミニ発表会(両キャンパス)、第1回クラブ・サークル代表者会議(健志台キャンパス)

5月 第1回クリーン大作戦(両キャンパス)、第2回クラブ・サークル代表者会議(健志台キャンパス)、22日 第1回審議委員会(健志台キャンパス)、第1回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)

6月 オープンキャンパス(補助学生)、学友会春季総会(世田谷キャンパス・記念講堂)、第3回クラブ・サークル代表者会議(健志台キャンパス)、29日 大クリーン大作戦第1弾 千葉県南房総市岩井海岸(中止)

7月 第2回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)、オープンキャンパス(補助学生)、第3回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)

8月 プレ研修(世田谷キャンパス)、オープンキャンパス(補助学生)、日体大スポーツ第84号制作(26日入稿～9月23日発行)、研修(関西大学)、日体大スポーツ遠方取材(自転車競技部＝長野県／ラグビー部＝長野県)

9月 日体大スポーツ遠方取材(トライアスロン部＝香川県／アーチェリー部＝大阪府／アルティメット・チーム＝福島県)、第4回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)、オープンキャンパス(補助学生) 日体フェスティバル事前説明会

10月 第5回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)、第3回クリーン大作戦(両キャンパス周辺)、第4回クラブ・サークル代表者会議(健志台キャンパス)、第6回日体フェスティバル全体会議(健志台キャンパス)

- 11月 第53回日体フェスティバル2019(健志台キャンパス・1～3日)、第5回クラブ・サークル代表者会議(世田谷キャンパス)、大クリーン大作戦第2弾(渋谷駅周辺)、第2回審議委員会(健志台キャンパス)、第53回日体フェスティバル2019反省会(健志台キャンパス)、第4回クリーン大作戦(両キャンパス周辺)
- 12月 オープンキャンパス補助学生(世田谷キャンパス)、学友会秋季総会(健志台キャンパス・1402教室)、第6回クラブ・サークル代表者会議(世田谷キャンパス)、日体大スポーツ第85号制作(15日入稿～1月9日発行)
- 1月 第96回東京箱根間往復大学駅伝競走取材、第7回クラブ・サークル代表者会議(世田谷キャンパス)、第5回クリーン大作戦(両キャンパス)、第30回リーダーズキャンプ参加者説明会(世田谷キャンパス)
- 2月 日体大スポーツ第86号制作(17日入稿～3月15日発行)、24、25日 第30回リーダーズキャンプ(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 3月 2019年度学友会祝勝会(世田谷キャンパス・スポーツ棟2階メインアリーナ1)、卒業式(部旗掲揚)、クラブ・サークル合同説明会事前説明会(世田谷キャンパス)、日体大スポーツ第87号制作(16日入稿～4月3日発行)、オープンキャンパス(補助学生)

4、活動行事内容報告

活動ごとに詳しく
記入してください。

①クラブ・サークル代表者会議

参加対象者である各学友会団体代表者を集め、総務部や大学事務からの情報を発信する場、各団体間の情報交換やコミュニケーションを図る場とする。また、討議の時間を設け各団体からの意見や要望を聞き、学友会活動の改善・発展に向けた活動を行なった。

第1回：学友会行事の予定について、学友会配当金にかかわる参加ポイントについて、学友会総務部からの連絡方法について、日体大スポーツ大会結果・予定について、クリーン大作戦実施について、クラブ・サークル合同説明会実施報告、社会貢献活動について、連絡事項

第2回：2019年度学友会春季総会について、第53回日体フェスティバル2019について、クリーン大作戦について、社会貢献活動 及び 書類提出について、協議事項・体育研究サークル、連絡事項

第3回：日体大スポーツ大会結果・予定について、クリーン大作戦について、第53回日体フェスティバル2019について、第53回日体フェスティバル2019事前説明会について、討議(日体大ブランドとは)、連絡事項

第4回：日体大スポーツ大会結果・予定について、第53回日体フェスティバル2019について、討議(社会貢献活動の意義)、連絡事項

第5回：2019年度学友会秋季総会について、クリーン大作戦について、第30回リーダーズキャンプについて、第53回日体フェスティバル2019実施報告、学友会誌について、連絡事項

第6回：日体大スポーツ大会結果・予定について、第30回リーダーズキャンプについて、社会貢献活動について、学友会団体の取り扱いについて、討議(2020年に団体として新たに挑戦したいこと)、連絡事項

第7回：日体大スポーツ写真提供の依頼について、日体大スポーツ贈る言葉について、日体大スポーツ団体紹介について、日体大スポーツ大会結果・予定について、2019年度学友会祝勝会について、2019年度学友会活動成績報告書の提出について、令和2年度クラブ・サークル合同説明会実施案内、討議結果報告、連絡事項



このように活動が分かるような写真や説明を添付してください。

▲クラブ・サークル代表者会議で報告をする様子

②審議委員会

年に2回、学友会規約の準拠に関する事、各クラブ・サークル同好会の部則及び会則に関する事、その他学友会の目的達成に必要な事項等について学友会執行部と総務部部員で審議を行なった。

第1回：平成30年度学友会活動報告、第29回リーダーズキャンプ実施報告、平成30年度学友会祝勝会実施報告、学友会における基本姿勢・基本方針・スローガンについて、2019年度学友会総務委員会役員について、平成30年度学友会収支決算報告、学友会における基本姿勢・基本方針について、2019年度予算案、2019年度収支予算案、2019年度総務部活動費予算案、2019年度特別活動費予算案、2019年度日体大スポーツ予算案、学友会団体の取り扱いについて、日本体育大学学友会内規及び日本体育大学学友会団体加盟・昇格・降格・廃部に関する内規改正について、2019年度学友会活動計画、クリーン大作戦について、日体大スポーツについて、第30回リーダーズキャンプについて、2019年度学友会祝勝会について

第2回：2019年度上半期学友会活動報告、第53回日体フェスティバル2019実施報告、クリーン大作戦実施報告、2019年度下半期学友会活動計画、第30回リーダーズキャンプ実施計画、2019年度学友会祝勝会実施計画、学友会団体の取り扱いについて、学友会内規学友会クラブ予算配当基準学友会内規学友会サークル・同好会予算配当基準改正について、令和2年度日本体育大学学友会総務委員会役員等候補について

③学友会総会

学友会における事項及び規約・会計並びに大学の支援に関することを行う最高議決機関である総会の運営・進行を行う。出席対象者は部長及び各団体学生代表者4名(主将・副主将・主務・会計の学生責任者又はそれに準ずる者)としている。

春季総会は東京・世田谷キャンパス記念講堂、秋季総会は横浜・健志台キャンパス1402教室にて行なった。決議の際には赤白のプラカードを使用し、視覚的に分かりやすく、出席者全員が総会に参加し決議を行う。代表者のみが出席する総会となっているため、参加しない学生の意見を吸い上げるという意図もあり、総会で取り扱う審議事項に関する資料を事前にN-passにて配信し、各団体で話し合いを行うよう促した。

春季総会：平成30年度学友会活動報告、第29回リーダーズキャンプ実施報告、平成30年度学友会祝勝会実施報告、学友会スローガンについて、2019年度学友会総務委員会役員、平成30年度学友会収支決算報告、2019年度収支予算案、学友会団体の取り扱いについて、日本体育大学学友会規約及び学友会団体加盟・昇格・降格・廃部に関する内規改正について

秋季総会：第53回日体フェスティバル2019実施報告、クリーン大作戦実施報告、第30回リーダーズキャンプ実施計画、2019年度学友会祝勝会実施計画、学友会団体の取り扱いについて、学友会内規学友会クラブ予算配当基準／学友会内規学友会サークル・同好会予算配当基準改正について、令和2年度日本体育大学学友会総務委員会役員等候補について



▲学友会春季総会の様子



▲学友会秋季総会の様子

④クリーン大作戦・大クリーン大作戦

地域貢献活動・社会貢献活動の一環として、学友会団体が両キャンパス周辺・日体大生が主に使用する地域で清掃活動をするクリーン大作戦の運営を年7回行なっている。この活動は、清掃による地域貢献だけでなく、学生の美化意識の向上や日体大生がどのような学生なのか地域住民や世間に公開し、より良好な関係を築き上げることを目的としている。また、今年度は集合場所をキャンパス内から周辺の公園などに移動し、通学マナーが問題視されている地域を清掃区域に組み込んだ。大クリーン大作戦では、日体大生が多く利用する地区での清掃活動として、夏期には本学海浜実習地である千葉県南房総市岩井海岸、冬期には渋谷駅周辺の清掃、さらには、台風被害にあった地域へのボランティア活動を予定していた。しかし、今年度は台風等の影響により夏季に予定していた岩井海岸での清掃をはじめ、複数回が中止となった。



▲大クリーン大作戦第2弾の様子



▲大クリーン大作戦第2弾集合写真

⑤総務部研修

令和元年8月、1泊2日で関西大学・体育会本部と研修を行なった。活動内容などが類似している組織と交流をすることで、新しい意見を手に入れることができた有意義な活動となった。主な内容は以下の通りである。

- a.各校の大学紹介及び事業紹介
- b.討議①【体育会・学友会の使命について考える】
- c.討議②【体育会・学友会を総括する立場としてどのような組織・個人であるべきか】
- d.討議③【体育会・学友会の使命やそれを統括する立場として競技成績向上・社会貢献活動の実施率を向上するための働きかけ】

⑥リーダーズキャンプ(見本の作成が2月上旬のため昨年度の内容)

2019年2月25、26日の1泊2日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、約140名の各クラブ・サークルの次年度主将と次年度副主将を対象に、宿泊研修会を行なった。このリーダーズキャンプは、質の高いリーダーの育成、リーダー同士の親睦を深めることを目標に運営している。参加者は10班に分かれ「理想のリーダー像」というテーマで分科会を行い、2日目の全体会にて各班が話し合った内容を発表し合った。

講演会では、女子サッカー選手の嶋田千秋氏をお招きし「チームを統率・牽引していくにはどのようなリーダーになるべきか」をテーマに講演会を行なっていただいた。

班内で行なった「お悩み相談会」では、団体・個人ごとの思いや、考えが交錯し、非常に有意義な時間となった。



▲分科会の様子



▲全体会での発表の様子

⑦学友会祝勝会(見本の作成が2月上旬のため昨年度の内容)

平成31年2月23日に開催され、学友会団体の活躍を祝い讃えるとともに、今後の活動の推進と本学の発展を目的とする。「全日本総合選手権」及び「全日本学生選手権」もしくは「それと同様の大会」において優勝を収めた団体及び個人とその指導者・監督、また、非優勝団体から学生・部長・顧問の内3名を参加対象者とし、約300名での開催となった。また、目玉企画としてマグロの解体ショーを行い、大いに賑わった。

式次第は以下の通りである。

- 一、開会宣言
- 一、学友会会長挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、乾杯
- 一、歓談
- 一、学友会会長賞授与
- 一、優勝団体スライドショー上映
- 一、歓談
- 一、閉会の辞



▲会場全体の様子



▲マグロの解体ショーの様子

⑧日体大スポーツ(学生新聞)

今年度は第 83～86 号までを発行した。日体大スポーツでの取材対象は本学学友会団体とし、購読対象は、本学学生・保護者(保護者会より郵送)・その他関係者とした。84 号は 12,000 部、その他は 11,000 部を発行。発行日には両キャンパスの学生食堂前や学生支援センター、図書館等に設置し、多くの学生の手に渡る環境を作っている。第 84 号では、日体大スポーツ創刊 20 周年を記念して、初代編集長との対談を掲載。また、20 周年記念グッズを作製し定期購読者や掲載団体に配布した。製作期間だけでなく、日頃より本学学友会団体の活躍をより多く取り上げるため、全国各地に赴き大会や発表会等の取材を行なっている。さらに、今年度は総務部ブログとは別に、日体大スポーツ専用ブログを立ち上げ取材報告を行い、紙面に載らない情報の発信にも努めた。また、日体大スポーツ公式 Twitter では取材を行なった総務部部員がリアルタイムで大会の情報や試合結果を即時的に発信することでより早い情報の提供や学生間の応援活動の推進を図っている。

▼2019年度日体大スポーツ取材実績

水泳部(水球ブロック)、自転車競技部、ゴルフ部、ウエイトリフティング部、柔道部、弓道部、トライアスロン部、アーチェリー部、ラグビー部、アルティメット・チーム、バドミントン部、バスケットボール部、第57回日本体育大学体育研究発表実演会、陸上競技部(男子駅伝ブロック)、バレーボール部、レスリング部、チアリーダー部、アメリカンフットボール部、エアロビック同好会、ヒップホップ同好会、その他(UNIVAS CUP、日体フェスティバル実施報告)



▲新聞社(東日印刷)での作業の様子



▲選手にインタビューを行う様子

⑨クラブ・サークル合同説明会

新入生を対象に、学友会団体の認知度向上や加盟率増加、各団体の部員獲得の補助、新入生が自身に合った団体を発見するための手助けを目的に運営を行なっている。今年度は学友会配当金の対象行事ではなく、希望団体のみでの参加とした。授業開始1週目に両キャンパスで行い、4日間の開催で約610名(重複あり)の新入生の来場があった。更に同期間にはミニ発表会を開催し、新入生へ向けて団体の活動を実演にて紹介した。多くの新入生が参加できるよう、昼休みの時間を使い、両キャンパス(世田谷キャンパス・スポーツ棟2階メインアリーナ2、健志台キャンパス・第三体育館)で1日ずつ開催。出演団体は両キャンパスを合計し、11団体(少林寺拳法部、新体操部、体操部、ダンス部、応援部、エアロビック同好会、ソングリーディングクラブ、伝統芸能・和太鼓同好会、バーベルクラブ、ヒップホップ同好会)であり、参加新入生は約180名であった。



▲説明会の様子(世田谷)



▲ミニ発表会の様子(健志台)

大会名や順位、活動内容なども具体的に記入してください。

5、次年度の活動目標等

今年度は学友会団体の代表へ向けたメーリングリストを作成し、各事業における情報発信の方法を一新した。また、アンケート等の回答方法にはグーグルフォームを用い集計の効率化を図った。しかし、回答率の向上は見受けられず、特定の団体において不備が目立ったため、回答期限・内容の周知徹底や不備団体への対応など工夫していきたい。

学友会総会では、昨年度の反省を踏まえ会の会開催の告知を多く行い、本会が学友会における最高議決機関であることの確認や会の実施意義を明確に伝える機会も設けた。一方、各会での反対意見や個人の意見は出てこなかったため、参加者一人一人が自身の考えに根拠を持って参加できるようにすることは今後の課題の一つである。

クラブ・サークル代表者会議は、各会で担当を設け準備を行うことで下級生のうちから会の趣旨や流れを理解し、部員一丸となって準備を進めていくことができた。討議については、「日体大ブランドとは」、「社会貢献活動の実施意義」など大学としての姿勢や学友会の活動について考える機会や、「日体フェスティバルで貢献できること」、「団体として新たに組みたいこと」など、各団体の可能性を引き出す場を設けることができた。しかし、討議結果の扱い方が不明確で実際の学友会活動・行事に反映することができていないため、次年度はこの点を改善し、学友会団体の自由な発想から生まれる討議結果を得られる内容の討議を実施していきたい。

今年度の総務部研修では関西大学 体育会本部の方々との大学交流研修を実施した。自分たちと同系の団体との関りを持ち、実際に行なっている活動の共有や各大学における自分たちの在り方について考える場となった。交流会の前には、本部員が総務部の在り方についてどのように考えているか、今度どのような存在になっていきたいかについて話し合う機会も設け、この研修を通してそれぞれが総務部員としての自覚をより強く持つことができた。今年度の研修での学びを活かし、次年度はさらに強固な学友会総務部として活動していきたい。

社会貢献活動の一貫であるクリーン大作戦では、今年度の大きな取り組みとしてゴミの回収方法を刷新した。ゴミの種類ごとに得点を設け、拾ったゴミの得点が高いチームを優勝とし景品を用意するゲーム形式で行い、例年になく盛り上がりを見せた。しかし、ゴミの数が多く数えきれない、集計に時間を要してしまうなどの反省点も多く、次年度の課題としてルールの変更などの工夫を行うことが挙げられる。また、通常のゴミ拾いに加え秋・冬季には落ち葉掃きを実施するなど目的に合った清掃を行うことができた。一方、今年度は天候に恵まれず、大クリーン大作戦を含めた年7回のうち3回が中止となった。後期からは、実施こそしなかったものの雨天時には討議を実施できるよう教室を借用するなど、中止の際でも美化意識向上を目指せるよう工夫していたため、次年度もこのような対策をとっていく必要がある。

日体大スポーツにおいては、例年に比べサークルや準公認団体などを幅広く取材した。編集局員数が増加したことでより多くの取材に出向くことが可能になったが、備

品の数や準備不足などにより本来できた取材もできないなど、改善すべき点が目立った。今年度は2020年東京オリンピック・パラリンピックが控えており、本学にとって非常に大きな節目になる年であるため、大学各署の協力を仰ぎ本学からの出場が決定した選手には可能な限り取材をし、本学ならではの特別な紙面を制作していきたい。

本部は昨年度までとは大きく異なり、今年度は部員数が急激に増加した。部員数の増加により簡略化されていた部分を改善することができた一方、一人一人の総務部員としての自覚のなさや、上級生の人数が少ないために指導が行きわたらず、作業の細部の丁寧さに欠けた1年であった。次年度は、これまで部員数の減少に合わせて作業の効率化を重視してきたことに対し、効率化だけでなく各事業の意義を確認しながら一つ一つの事業を大切に行なっていきたい。また、次年度は学友会団体だけでなく、学友会団体に所属していない学友会会員も積極的に学友会行事に取り込んでいくことで所属意識の向上や学友会の発展を図ってきたい。

以上のことを踏まえ事業に真摯に向き合い、準備の徹底・反省点の改善を行い各事業に取り組んでいきたい。本部は、次年度も学友会の発展に寄与できるよう部員一丸となって事業に取り組んでいく。